

とこよ
常世の国

つくばね
筑波嶺

か
翔ける 文化のいぶき

国民文化祭・いばらき2008



本年11月1日(土)～9日(日)の9日間、第23回国民文化祭・いばらき2008が開催されます。

国民文化祭は、全国各地からトップレベルの文化芸術愛好者らが一堂に会し、様々な分野で発表・競演・交流を繰り広げる国内最大の文化芸術の祭典です。

国文祭いばらきでは、県内の市町村を会場にさまざまなイベントが開催されます。

行方市においても普段の文化活動を活かし多くの方々が開催に向け準備に取り組んでいます。そのなかから今回はお2人のお話を伺いました。

『東海道中膝栗毛』の作者で知られる

十返舎一九と旅する

霞ヶ浦



東洋大学教授 中山尚夫氏

日本近世文学研究に取り組む

主な著書に「十返舎一九研究」等

『十返舎一九は地方の庶民、風土人情、風俗などを描いている最初の作家ではないか』と思います。古文といっても笑いやこっけいさを織り交ぜた庶民的な文学なんです。『そう語ってくれたのは、11月2日、シンポジウム十返舎一九と霞ヶ浦で『常総地方を舞台にした一九旅の文学』というテーマで基調講演をしてくださった中山先生。水郷と呼ばれるこの一体は利根川水運の地でもあり東国三社参りなどを兼ねて文人達がよく訪れた土地柄。なかでも一九は実際に行方市を訪れているのだそうです。『この地に実際に足を踏み入れているものなにかの縁ではないか』と思います。この機会に是非、十返舎一九に親しんでいただきたいと思います。』

筑波から始まり筑波に還る言霊の歌舞台

筑波山とひたちの

民たちの歌舞台

もともとは玉造商工会青年部の事業として始まったという市民劇団玉造座は現在会員16名。11月8・9日に市文化会館において上演予定の『天狗―TENGU―』の練習に励んでいるそうです。代表の須田さんにお話を伺いました。『この作品は幕末の新たな国づくりを目指した天狗党拳兵を描いた作品です。幕末の水戸藩を中心とした武士や領民たちの思いをうまく表現したいと思っています。地元の人にも意外と知られていないのでこれをきっかけに関心をもってもらえたら嬉しいです。すばらしい舞台を作ろうと一生懸命がんばっているのでは是非、観にきてください』



玉造座 代表 須田剛氏

2005年の旗揚げ当時より『まちづくり市

民劇団●玉造座』にて代表を務める。

今回、ご紹介させていただいたお2人のほかに、多くの方々が国文祭が盛大に開催されるよう協力してくれています。

行方市で開催されるイベントはもちろん、県内においてもたくさんさんの催しが開催されますので是非、足を運んでみてください。きっと新しい「文化」の発見があるでしょう。

◇行方市の事業◇

●市民劇

「ツクバ系 GIRL」

麻生高等学校演劇部

「天狗―TENGU―」

まちづくり市民劇団●玉造座

●まちなか観光（行方市半日バスツアー）

●味わい応援団（行方市の特産品販売）

●狂歌大会（狂歌による文芸振興へチャレンジ）

●シンポジウム「十返舎一九と霞ヶ浦」

●旅のミニ文学館

●七色帆引き船合同操業

問合せ

第23回国民文化祭行方市実行委員会
（市生涯学習課内）

☎ 0291135-2111

11 / 3
（月 祝）

七色帆引き船が 合同操業します



白魚やワカサギなどが採れます

霞ヶ浦の風物詩として優雅な姿で私たちを楽しませてくれる帆引き船ですが、本来は明治時代に始まった帆引き網漁を行うために開発されたものでした。昭和40年頃からトロール船に取って代わられ、まもなく姿を消しましたが、霞ヶ浦漁業の歴史を知る上で極めて重要な文化遺産です。

現在、行方市が所有する帆引き船は5艘。国文祭期間中にはかすみがうら市、土浦市と合同操業を行います。鮮やかな七色の帆を張って霞ヶ浦に登場する9艘の帆引き船をぜひご覧ください。